

那 霸 市 教 育 委 員 会 会 議 録

令和6年度（2024年度）第19回（定例会）

署名人 山城 達彦

教育長 宮里 寿子

開催日時 令和7年（2025年）1月29日（水）

開会 午後2時00分

閉会 午後3時19分

開催場所 那覇市役所10階 1002会議室

出席者

[教育長・教育委員]

宮里寿子教育長、安里恒男委員、仲本千佳子委員、二木志保委員、山城達彦委員

[事務局職員]

【生涯学習部】稲福喜久二部長、安次嶺博志副部長

（総務課）平良美夏課長

【学校教育部】比嘉真一郎部長、平良進副部長

（学校教育課）濱川太課長、平良真哉副参事、運天弘和管理主事

議事日程 日程1は非公開案件。

1 報 告 1 教育長が臨時代理したことについて

【学校教育課】

2 報 告 2 那覇市議会令和6年11月定例会における議決議案及び代表・一般質問等答弁状況について

【総務課】

（会議録作成 総務課）

宮里教育長 ハイタイ、これより、令和6年度第19回教育委員会会議（定例会）を開催いたします。本日は、報告2件となっております。議事録署名は山城委員、よろしくお願いいたします。ここで非公開について諮りたいと思います。報告1は、人事に関する案件であるため、非公開とすることが適当であると思われま。報告1を非公開としてよろしいでしょうか。

委員全員 はい。

宮里教育長 異議なしということで、では、報告1を非公開といたします。関係者以外の退席をお願いいたします。

～ 非公開 ～

～ 非公開 ～

宮里教育長 非公開を解きます。続きまして、報告2「那覇市議会令和6年11月定例会における議決議案及び代表・一般質問等答弁状況について」の説明をお願いします。稲福生涯学習部長、よろしくお願いいたします。

稲福部長 報告2ですが、那覇市議会令和6年11月定例会における議決議案及び代表・一般質問等答弁状況について、報告をさせていただきます。内容については、総務課から説明いたします。

宮里教育長 平良総務課長、よろしくお願いいたします。

平良課長 よろしくお願いいたします。それでは総務課より、那覇市議会令和6年11月定例会における議決議案及び代表・一般質問等答弁状況についてご報告いたします。11月定例会の会期は令和6年11月27日月曜日から12月19日木曜日までの25日間ございました。期間中12月3日から4日までが代表質問、12月5日から10日までが一般質問となっております。

お手元の資料の議決議案書目次をご覧ください。教育委員会より、意見の申出を行いました議案3件について提案されております。それでは1ページをご覧ください。議案第116号「那覇市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例制定について」及び議案第118号「令和6年度那覇市一般会計予算（第6号）」については原案可決されております。続きまして、2ページ、議案第123号「財産の取得について（液晶ディスプレイ一体型電子黒板）」については同意を得ております。詳細につきましては、議決議案及び代表・一般質問等答弁資料集の方をご覧ください。引き続きまして、本会議での答弁状況についてご報告いたします。議案の目次までめくって頂きまして、答弁資料集目次（課単位）と記載されている表をご覧ください。課単位での、のべ対応件数ですが、生涯学習部総務課2件、生涯学習課5件、市民スポーツ課2件、施設課7件、中央公民館2件で生涯学習部合計18件となっております。続いて学校教育部でございます。学校教育課34件、教育相談課8件、学務課4件、学校給食課8件、教育研究所3件の合計57件でございました。

教育委員会全体では、一部重複がありますので、全体では72件の質問がございました。戻りまして、答弁資料集目次（進行順）とあります資料をご覧ください。説明は議会での質問順に行いたいと思っております。各議員の質問内容は目次以降、附番されている資料をご覧ください。左から質問内容、議員名、担当課、答弁の日、代表又は一般質問の別、答弁書のページが記載されております。代表質問は2日間に渡り、それぞれの会派を代表して行われました。まず初めに、代表質問1日目は6件の質問がございました。答弁書1ページから9ページが答弁内容となっております。4人の議員から6件の質問がございました。質問内容につきましては、学校問題解決支援事業の概要について、森林環境譲与税の活用、保護者連絡ツール、AIツールの活用状況及び効果、県内サッカーチームのホームタウンとしての現状と取組について等の質問がございました。その内1ページ、粟國彰議員からの質問では、学校問題解決支援事業の概要についてご質問がありまして、保護者や地域等から学校や教員への過剰な要求、過度の苦情に初期段階から対応するため学校問題解決支援員を配置する等の答弁を行っております。また花城典史議員からは保護者連絡ツールや校務支援システムについてご質問があり、導入のメリットやスケジュール等を答弁しております。それでは、代表質問2日目でございます。答弁書は10ページから25ページをご覧ください。代表質問2日目は6人の議員から9件の質問がございました。内容でございますが、給付型奨学金、不登校支援、夜間中学、学校給食費無償化、体育館の空調設置、学校施設への防犯カメラ設置、就学援助などございました。そのうち、前田千尋議員には11ページから17ページにかけて、幸地わかえ議員には21ページ、不登校の支援や現状について答弁を行っております。また、学校給食費の無償化に関する質問が3人の議員からございました。本市の取り組みにつきましては沖縄県が策定する補助金交付要綱を注視し、最終的な制度設計を策定していきたい旨で答弁しております。学校施設関連としましては、19ページから20ページ、大城幼子議員から体育館への空調の整備、防犯カメラ設置について質問があり、現状について答弁いたしております。

続きまして一般質問でございます。一般質問は4日間の日程となります。一般質問は議員個人それぞれからの質問でございます。一般質問1日目は、4人の議員から8件の質問がございました。答弁書は27ページから41ページとなります。まず、学校近隣に葬祭場が建設されるという件、森林譲与税を活用した修学旅行の実施、夜間学級の設置、首里公民館・図書館の大規模改修、中卒進路未決定者への支援等、学校トイレの洋式化、こどもの防災について等の内容となっております。そのうち、夜間学級につきましては、代表質問2日目に前田千尋議員からも質問がございましたが、教職員の確保や人的配置等について、沖縄県との協議状況についてお答えしております。西中間久枝議員からは首里公民館・図書館の大規模修繕について、工期や修繕改

修の内容について答弁しております。一般質問2日目でございます。答弁書は43ページから70ページ、7人の議員から24件の質問がございました。検定の補助、子どもの貧困、不登校、教職員のメンタルヘルス、学級担任未配置、フッ化物洗口、運動場スプリンクラー設置、メディアリテラシー、子ども会の活性化、調理実習、学校防犯カメラ、学校の安全点検、教材、県外派遣などについての質問内容となっております。特に不登校に関連する質問が多くございまして、関連してフリースクールなどについても質問がございました。不登校支援の状況や出席の取扱いなどについて答弁を行っております。また、メディアリテラシー教育についても、発達の段階に応じて取り組んでいる等の答弁を行っております。続きまして、一般質問3日目でございます。答弁書は71ページから87ページです。7人15件の質問がございました。フリースクールに通う家庭への支援、平和教育、芭蕉紙の活用、学生のカン無料化、学校給食無償化、防犯学習、SNSを通じたいじめ被害や悪影響について、子どものストレスチェック、教職員の休職人数や担任未配置について、教職員評価システム、冷水器の設置、地域学校連携施設、葬祭場建設と教育環境についてなどでございました。その中で、我如古一郎議員から質問のありました地域学校連携施設については、設置状況、利用状況などについて答弁を行っております。一般質問4日目、質問の最終日でございます。答弁書は88ページから100ページとなっております。6人の議員から10件の質問がございました。質問内容ですが、パーカー制服の導入について、制服がパーカーでも良いんじゃないか、という意味のパーカー制服、外国人児童生徒等教育の位置付け、学校給食の栄養素について、学校給食費無償化、ユースセンター事業、児童生徒の暴力行為について、学校周辺における防犯カメラ設置、自主避難所における避難時の電源不備や老朽化について、曙小学校の昇降機設置について、修学旅行費の補助について等でございます。そのうち、清水磨男議員からは、第3次那覇市教育振興基本計画において外国人児童生徒等教育の位置付けについて答弁いたしました。こちらの方は、那覇市の第3次那覇市教育振興基本計画に位置付けられているという旨、答弁しております。また、同議員から学校給食摂取基準について質問がございまして、食材費等の高騰で基準を満たす提供が難しくなっているとの現状の答弁を行っております。宇根良也議員からは、本市における令和5年度の児童生徒の暴力行為が過去最低であったことを受け、その対応について質問がございました。発達の段階に合わせた非行防止教育を行っていること、警察と連携し、指導を行うなどの対応について答弁しております。

本定例会では、教育に係る様々なご質問をいただきました。特に今回は、学校給食費の無償化や不登校支援について、多くの質問がございました。

最後に資料といたしまして、11月9日に開催された那覇市若者ミライ議会の資料を配布しておりますので、後ほどご覧ください。以上、那覇市議会11月定例会の報

告でございました。

宮里教育長 はい、ありがとうございます。では、今、説明がございました11月定例会について、何かご意見ご質問があればどうぞ。安里委員、お願いいたします。

安里委員 1月の定例会では、今、説明がありましたとおり、学校給食費無償化について、結構、質問が集中していたんだろうなと思っていて、前田議員の代表質問、また、一般質問でも、市長の重要な選挙の公約でもありますよね、ということで、是非、無償化に取り組んで欲しいということでしたけれども、先だって、1月25日の新聞報道にも掲載されていて、中学校は給食費無償化へいくと、4月から市内の小学校は半額補助するんだということで報道があったので、これはもう本当に市長の英断と言うか、すごい決断をしたんだろうなということで、それはすごく良かったなという印象を受けました。

お聞きしたいのは2件あって、代表質問の栗國議員の質問の中で、学校問題解決支援事業の概要について、というのがありますけれど、これはどういったものなのかなというものをまず伺いたいと思います。どうでしょうか。この辺のところ。

宮里教育長 はい、どうぞ。

比嘉部長 学校で起こる様々な保護者対応に係るトラブル、そういったものですね。学校現場が非常に疲弊している状況であるということで、経験値の高い方を、校長先生とか、警察官OBを想定していますけれども、そういった法的に、関係機関にすぐ繋がられるように、相談できるように、学校において、そういった助言・支援ができる人を市教委で任用してですね、指導主事と一緒に出向いて支援ができないかなということで、タスクフォースを組んでからやっていきたいということなんです。

安里委員 これは、例えば、警察OBの方を何人かお願いをして、学校から、そういった困っていますって言った時には、この方々に相談にのってもらおう、ということですか。

比嘉部長 運用について細かいところは、今からなんですけれども、基本的には、そういった要望のある学校に行きますし、定期的に学校を巡回したいと考えています。

安里委員 分かりました。ありがとうございます。違うことで、もう一つですけど、那覇市は教職員のメンタルヘルスケアに取り組んでいるということで、9月の定例会では、當間議員とか下地議員から、この教職員のメンタルヘルスのまあ、何名くらい休んでいるのとか、あるいは、どんなふうになっているんですかということがあって、今回11月の定例会の中でも多和田議員が、そのメンタルヘルス対策について質問がありましたし、その周知の仕方みたいな質問があったと思うんですね。この中ですごく、答弁の答え方として、個人的な感想だけど良いなと思ったのは、ヘルスケア・ラインケア研修をしていますよと、その中で特に、この保健師などの専門家に相談できるような仕組みを作っていますよというのは、答弁書を読んでいて、これは丁寧に答えているなって思いました。その中で保健師からの保健だよりを通して周知していますよとい

うことで、これも良いのかなと思いましたがけれども、あの、どうでしょうか。僕は、一応、報告書でしか、感じ取れない部分がありますけれども、議員さんの中では、教職員の負担軽減、あるいはメンタルヘルスケアの対応というのは、かなり、ご理解をいただいていると受けとって良いのかな。その辺のところはどうですか。

宮里教育長 議員からですよ。

安里委員 はい。つまり、質問が少なくなっているから。

比嘉部長 ご理解頂いていると感じていますし、先生方、個人にこういったカード、QRコードですぐにアクセスできるカードを全職員に配布してあります。先程ありましたメンタルクラウドを教職向けの研修などにも入れていきますので、浸透しているのかなと思っております。

安里委員 ということは、議員さん達としては、雰囲気的には、上手く取り組んでいるね、という印象なのかな。

宮里教育長 そこはちょっと分からないですけど、ただ、成果は上がってきているのかなと思う部分はあります。一つはやはり、この文科省からの受託事業があって、先ほどお話のあった、メンタルクラウドと言いますけれども、カードからQRコードを読み込むと保健師さんとすぐ面談ができる、というシステムがあるんですね。去年からありますけれども、それがなかなか普及しなかったんですが、さっき言った、今は保健師が常駐できる。保健師の方が、何かあった時に校長から連絡があったら、学校に出向いてその様子を聞くという体制が出来ていて、実は昨日かな、私は資料を貰ったんですけど、現時点ですよ。12月の時点ですが、350何名の教職のメンタル不調があったんですけども、現時点では、まず3月にどれくらい増えるか分からないですが、8名減でしたね。もう一つ、この対象の人達と保健師がどれだけ関わっているかというのも、去年は一桁のパーセンテージだったんですけど、今年は5割近く来ていると。つまり、保健師とつながっているんですね。この辺りも良いのかなと思うのと、この保健師さんが出す保健だよりというのがあるんですけど、多分、それはこれまでスルーされていたと思うんですよ。ただ学校に配っても。だけど、私は教頭会で、この保健だよりを皆さんに配って、教頭先生にQRコードをかざしてもらって、心のケアということでやってもらったんですね。教頭先生方、皆さん一生懸命やっています。これが配られているから、学校でもやってくださいと伝えました。それから多分、セルフケアという部分があるのかなと思いますが、どちらかと言うと管理職のメンタルも大変なんですよ。管理職のメンタルも。この間は、オンラインで講師がその辺の質問に対して、答えてくださっていて、この事業は非常に良いなと思っています。ラインケアというか、どうやって学校でケアして行くかということだったんですけど、前にもお話したように、行政と違うんですね。行政の組織は本当にきちんとピラミット型なんです。副参事がいて、主幹がいて、その下につづく。学校は鍋蓋型と言われてい

まずけど、校長・教頭は全部のラインケアというか、どうやって学校でケアして行くかというところだったんですけど、そこの部分でやっぱり、悩んでらっしゃるなどというのは、この質問からもとても感じました。第1回目は、それに対して講師が、一つ一つ答えてくださって、とても良い研修会でしたよね。このメンタルヘルス対策は、何も教職員だけじゃなくて、管理職もかなというふうには感じました。答えになっているのか、分からないんですが、今は一応そういう状況です。保健師配置は、非常に効果が大きいと思います。

安里委員 ありがとうございます。

宮里教育長 休憩します。

～ 休憩 ～

～ 再開 ～

宮里教育長 再開します。ほかにも、ございますでしょうか。仲本委員、お願いします。

仲本委員はい、この若者ミライ議会の配布資料から質問ですけれども、11ページかな。後ろから3ページ目の、大学生のつくし学習サポーター、具体的にどんな感じで、どこで、どの位の規模で、学習支援しているのか、具体的な内容が知りたいですね。

宮里教育長 どうぞ。

比嘉部長 教育相談課に来てもらって、子ども達の学習支援を行っています。

仲本委員 教育相談課の、津波避難ビルに行っているということですね。なるほど。

安里委員 こういった大学との連携が整えられていて、出来ているということなのかな。

平良課長 琉球大学、沖縄国際大学、それから沖縄大学等の教育学部等へ、こういうボランティア活動をやっているの、学生の皆さんにも希望者がいれば、ということで、大体は、教育相談課の心理士が、毎回学校に伺って一旦説明ををお願いしている。以前はそういう形でした。今も同じかと思います。登録していただいて、時間が空いている時に子ども達をみる。

仲本委員 特にこの運営に関して、那覇市から何らかの予算が動いているとかっていうことじゃなくて、ボランティアで。名護では、那覇でやっている、この無料塾みたいなものではあるんですけど、名桜大学が「ぴゅあ」という学習支援をしていて、主に困窮家庭とシングルのご家庭、少しく、困り感のあるご家庭、困窮というよりもう少し広い感じの学習支援ですけど、名護市がお金を出して、何ヶ所かの中学校区に行って、無料塾みたいにして、大学生が来るんです。それが夜の学習塾なので、大学生なので、心理的ハードルが低いみたいで、中学生向けに、学校には行かないけど、やっぱり勉強はちょっとしておこうかなとか、今になってやっぱり受験もしてみようかなとか、昼は動きづらいとか、支援の先生達とはちょっと嫌、みたいな子とか、もう一つ繋がる場として、大学生とだったら気軽に良いということで、また歩いて行ける距離に配置してもらっているの、これは結構好評で、困窮じゃなくても行きたい、

みたいな子もいるんだけど、多分、貧困の助成金を使っているんだと思いますけれど。那覇の無料塾はプロの方達ですよ。ちゃんとした塾だと思うんですけど、こういう気軽にハードルが低い感じの、大学生の無料塾をやっていくよりも、こう割とニーズがあつていい感じではありました。

宮里教育長 他にもありますか。安里委員、どうぞ。

安里委員 このあいだ、勉強会でやった夜間中学校についてですね。代表質問で前田議員だったのかな、が質問しているんだけど、この夜間中学校は、ある一部の1人だけの議員さんの熱い想いかなと思ったら、他の代表質問にも出てきているので、その辺は、どんな感じですか。

宮里教育長 どうですか。

平良課長 議会で二度、那覇市の方に設置を求める決議が出ていますので、関心をお持ちの方もいらっしゃるかと。

宮里教育長 安里委員、どうぞ。

安里委員 この答弁の中では一貫して、11名の教職員の配置は必須ですよと押し通しているのですが、それはそれで良いのかなという印象は受けたんですけども。

宮里教育長 第1回目が「那覇市立夜間中学（学級）の設置に向けての決議書」、第2回目が「県都・那覇市への夜間中学（学級）の設置を求める決議」というふうに、つまり、那覇市立というところが大きく変わったということがありました。これは、全会派一緒になって決議しているので、前田議員が、あれはどうなっていますかと聞いていて、この時にも11名で答えています。休憩します。

～ 休憩 ～

～ 再開 ～

宮里教育長 再開します。他にも、ご質問ありますか。安里委員、お願いします。

安里委員 給食費無償化は一段落したので、次にご質問が増えてくるのは不登校だと思うんですね。その答弁を見ていると、登校復帰する児童生徒数を、新たな不登校児童生徒が増えてきているということが課題なんだということが答弁されていますので、この辺の対応を考えなくてはいけないんだろうなというのを思いました。教育相談課が中心になっていくんでしょうね。

宮里教育長 新規を生まないということでしたね。

安里委員 はい、これは感想です。

宮里教育長 はい、仲本委員、どうぞ。

仲本委員 不登校も小学校1年生の不登校と小学校高学年、中学生の不登校と、全然性質が違うので、それぞれに対策が違ってくると思うので、その辺を教育委員会としては、不登校に関してはこういう対策をしています。メニューはこれだけだと、その辺をもう少し市民に対して示す、もっと何かアイデアがあれば色んなところから助けてもら

うという、教育委員会だけではなく全庁挙げて不登校に取り組んでいく、そういうふうに頑張っていけないといけないですね。

宮里教育長　そうですね。一つは、校長面談で話があったのは、民間には行けている子たちがいるんですね。古蔵中のところで、この変も連携していかないといけないと思いますね。何度も質問が出ているんですけれども、フリースクール等ですね。フリースクール連絡協議会でしたか、立ち上がったみたいで、そことの連携を。

仲本委員　やっぱり評価で「1」を付けられるとですね。学校に行っていないあなたの評価ですよ、ということで、本人も覚悟しているはずですが。やっぱり「1」と見るとすごいショックを受けるので、もう少し何か、生きる力がどれ位付いてきているかとか、意欲がどうか、先生方達の見立てはきちんとして出来ているので。ネガティブでない、この子の育ちを丁寧に、文脈として評価が出来るようなやり方というのかな、そういう子どもの自己肯定感につながるように。現場での評価は大変かなと思いますけれど。

宮里教育長　はい、二木委員、お願いします。

二木委員　色々と不登校についての勉強会を、県主催であったり、文部科学省主催であったり、研修させていただいている中で、学校経営をいかに改善して、楽しい学校にするか、この間、石破さんが楽しい日本って言ったことにちょっと似ているんですけど、楽しい学校にしていくかということが、すごく大きな柱である。そのことによって不登校にならないように、子ども達が学校に行くようになるんじゃないかという、そのことが大きな柱であると。それからもう一つ、今、教育相談課とか支援センターとか、そういうところでやっているような、現に不登校になった場合に、どういうサポートをどこでやるかということですね。いろんな都道府県の取り組みとして、すごく緩いやり方が称賛されるというか、大学の先生のオンライン研修を受けたんですけども、とても緩く、例えばね、イオンと委員会が連携してね。そこに集まる子ども達に対して教育的何かをやって、それを評価の良い方の出席に扱っていくとか、こんなに緩くてもやるんだとか、何か発想転換がそこであるような感じがしました。那覇市でそれを取り入れられるかどうか分からないんですけども。あと、そのフリースクールと似たような感じですけど、海のものやら山のものやら、そういう、よく分からない民間の組織もちゃんと活用して、そこに行っている子たちの活動内容を、学校が情報をちゃんと取るようにして、良い評価にしていくということも大事なんだなと思いました。本当に、教育の世界がどんどん変わっていった感じでしたんですね。それが先進的な取り組みなんだというふうに、この間の研修会で。

宮里教育長　その研修会で、生徒指導提要改定の、副座長の方でしたけれど、学びの場は子どもが決めるという話をされていましたね。

二木委員　国もそれも許容しようという、むしろ推進しようとしているんだなっていうのは、何だかじわじわと伝わってきたところだったんです。ところが、ひるがえってね。考

えると、那覇市はまだ固いんですよ。良いことか悪いことかは別としてね。いつだったかの校長会の時に私も同席していたんですけど、フリースクールをどう扱うかということに対してのコメントで、教育相談課のある係の方が、やっぱり指導要領に合う指導が出来ていなければ、それは認められないというふうな、少し固い否定的な見解を述べていて、私はそこにちょっと違和感を感じたんですけど、まだだなというところ。その辺をちょっとずつ埋めていくというのが大事だなと。まとまりませんが。

比嘉部長

実際問題、学校教育ですので学習評価の指針というものがありまして、そのフリースクールと学校との繋がり、そこから評価報告をしてもらって、また市教委がその確認をしたり、そこでの学びを学校評価に取り入れる指針を今作っているの、それを現場にしっかり落とし込んで、柔軟にその子にとって良くなるようにということで、今、仕組みづくりは整えています。あとは、学校の現場への周知ですね。これを近いうちにやっていこうと思います。

二木委員

多分、校長先生でも、まだその辺がわかっていない方は、「1」を付けるようなことになってしまうのかなと思うので、教育委員会がその辺を指導していただける方が良いと思います。子ども達もハッピーになれる、親もハッピーになる、誰も不幸にならないと思うので、そう思います。

宮里教育長

はい、仲本委員、お願いします。

仲本委員

今は小学校なんか、特にですけど、学級づくりの時期があるじゃないですか、4月の多分1週目、2週目を先生達も、こう最初の小学校1年生なんかね。どういう学級にしていこうか、学校って、こういうことだよって、ごたごたしている時期ですよ。まだ信頼関係が担任と出来ていない時期。多分、今までだと社会性がしっかり育っているようなお子さんが大多数な時代だと、先生方のイメージ通りに、1週目くらいで、しっかり学校の習慣を身に付けさせてという感じでいけた、学級づくりができたと思うんですけど。今はやっぱり、かなり子ども達もコミュニケーション能力だったり、そういう、社会性の育ちにムラが大きいので、最初の導入時期をもう少し丁寧でできるようなスケジュール感というのかな。そういうのを先生方に持ってもらって、何よりも信頼できる大人の言うことしか入ってこないの、子どもって特に。どうやって安心して学校に来てもらうか、先生を信頼してもらうかということ、どう工夫できるかというところを、もうちょっと丁寧に落とし込めるようなスケジュール感で、もう一回、見通してもらえると良いのかなって思うんですけどね。

宮里教育長

学力推進向上の取組みをやってみて、「架け橋プログラム」っていうんですかこれ、アプローチの部分で、ちょっと差が出てきているところがあると思うので、この辺は、またお話していきますね。魅力ある学校づくりというところが、大前提なんですよ。その辺をやってからの個別の取り組みだと思うので、まずは、子ども達が学校へ行きたいと思うような学校づくりを、はい。

仲本委員 はい、理由なく学校に行っていない子が結構いるんですよ。別にいじめられているわけでもないし、勉強したくないわけでもないんだけど、学校に足が向かない。何か行きたいという気持ちが湧かないという感じですよ。やっぱり、親も学校は絶対行くものだよってという雰囲気がない。やっぱり、前より圧が弱いからなのかな。そんなに行きたくないんだったら、ここで、また無理されると困るみたいなことなので、子どもも、理由なく、よく分からないまま学校から足が遠のいて、段々もう行かなくなるみたいな感じなので、行きたくなくなる感じなので。

二木委員 でも、皆にとって行きたい学校が、どのポイントで行きたくなるか、というと、それは、本当に難しい。昨日ある新聞を読んで児童精神科医の先生が、H S C (H i g h S e n s i t i v e C h i l d)、これを発達障害と誤診されることがあるとか。全く私からは納得できないんだけど、少なくともハイパー・センシティブな人がいるっていうのは事実なんですね。そのお子さんが、学校というところに入った時の、あの騒めきとか、色んなことでみんなの目が怖いとか、そういう子たちは、やっぱり怒れないんですよ。だから、どっちみちこう大きいサイズの場所は、無理な子がいるので、イオンならいいって、変なんですけども、色んな形を作れば、認めれば、何とかなっていくのかなというふうに、希望的には思います。

仲本委員 難しいね。

宮里教育長 難しいですね。だから本当に、ここの方にシフトしたいんです。頑張ります。色々この辺を。他にまたありますでしょうか。はい、山城委員、お願いします。

山城委員 答弁書27ページにあるんですが、葬祭場建設という記述なんですけど、私、石田中学校の卒業生なんですけど、あの通りに、駐車場を置かないで葬祭場できる様な広い土地があったかなって思うんですけど、どの辺なのでしょう。

比嘉部長 正門の通りだと、弁当屋さんがあって、その隣り、郵便局跡地です。

山城委員 昔、ここは、住宅地だったんですけども、今は何かまとまった土地になっているんですか。

比嘉部長 郵便局が、結構長い土地があったみたいです。

山城委員 何か、卒業生としても建てて欲しくないな。騒がしいですよ、車で来た方が午後からずっと並んだりしたら。

仲本委員 今、南風原の新川地区は、医療福祉ともいえることで、南風原から土地を提供してもらって、医師会館とか、小児保健協会とか、薬剤師会とか、看護師会が、しっかり技能集団の協会ができていますけど、この最後の一角だけが、何が出来るのか、分からなかったんですけど、何と、葬祭場が出来るということになったんですね。それで、ここで騒めいて、反対しようみたいなことだったんですけど、もう、これは、止まらないでしょうということ。交通安全は、しっかりお願いしますということと、葬祭場の言い訳と言うか、説明では、家族葬、大きな葬祭場ではないので、小規模な

もの、家族だけでやるような葬祭に対応する会場なので、そんなに車の出入りが、激しく出るようなことはありませんということでした。多分ここは、そんなに広い土地ではないので、恐らく、そういうことだと思います。葬儀がすごいんじゃないですか。葬儀場、パンクしていて、今後、団塊の世代が75歳くらいになってきて、すごい葬儀が、今から大変なことになるわけですよ。恐らく、ニーズがしばらくは続くと思うんですね。20年以上ぐらいは、多分、こういう小規模の葬祭場が、あっちこちにできていくんじゃないかな。

二木委員 火葬場とは違うんですか。

宮里教育長 そうじゃないです。葬祭場です。

二木委員 セレモニーねえ、人生最後のセレモニー、誰もが経験するべきセレモニーなので、むしろ、教育的効果は抜群じゃないですか。

宮里教育長 多分ね、その時に傍聴席のところに、本当に心配なさっている住民の方が結構いらっしゃっていて。やっぱり、心配なさってたのが今おっしゃっていたみたいに、交通の便だとか、喪服で通っているのがちょっとな、みたいな。学校へ行く時についてのがあったんですけど、家族葬なので、それ程参列者はいないんじゃないかという答弁をしていました。ただ、住民が怒っていたのは、説明が無かったというところがあるけど。

仲本委員 わざとかなと思いますけどね。業者がもう、建てますという、工事の直前に説明だったので、もう引き返せないところで、多分、説明会したんだなっていう感じでした。

宮里教育長 建てることによって、違反みたいなところは無いんですね。建築許可が下りているんだから。

山城委員 普通、小中学校の周辺、何キロ以内は風俗店とカラオケ店はできない、取り消す。

稲福部長 風営法、条例には掛かっていないということで、これ自体は。

宮里教育長 何か、葬祭場とはわからないではないんですけど、その辺も配慮はするみたいな話は、していましたけどね。たくさん住民の方がいらっしゃっていて。他にも、ありますでしょうか。よろしいですか。では、全ての質問が終了したという事で、報告2「那覇市議会令和6年11月定例会における議決議案及び代表・一般質問等答弁状況について」は終了いたします。以上を持ちまして、令和6年度第19回教育委員会会議（定例会）を終了いたします。お疲れさまでした。

案件の審議結果

報告1	教育長が臨時代理したことについて ※県費負担職員の内申	承認
-----	--------------------------------	----